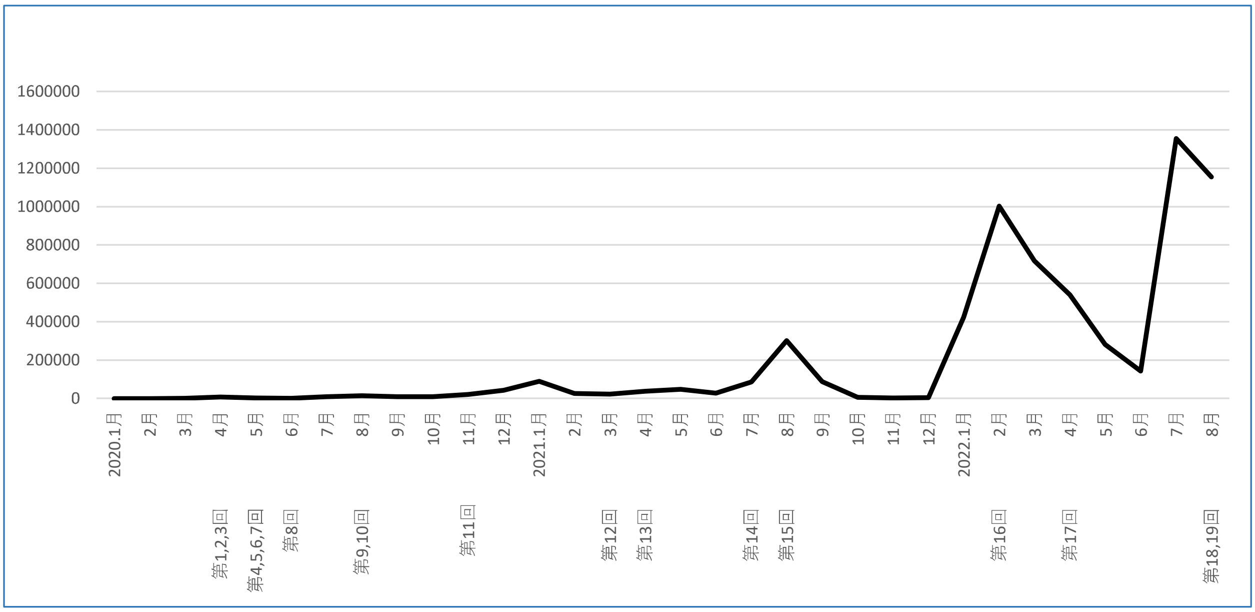
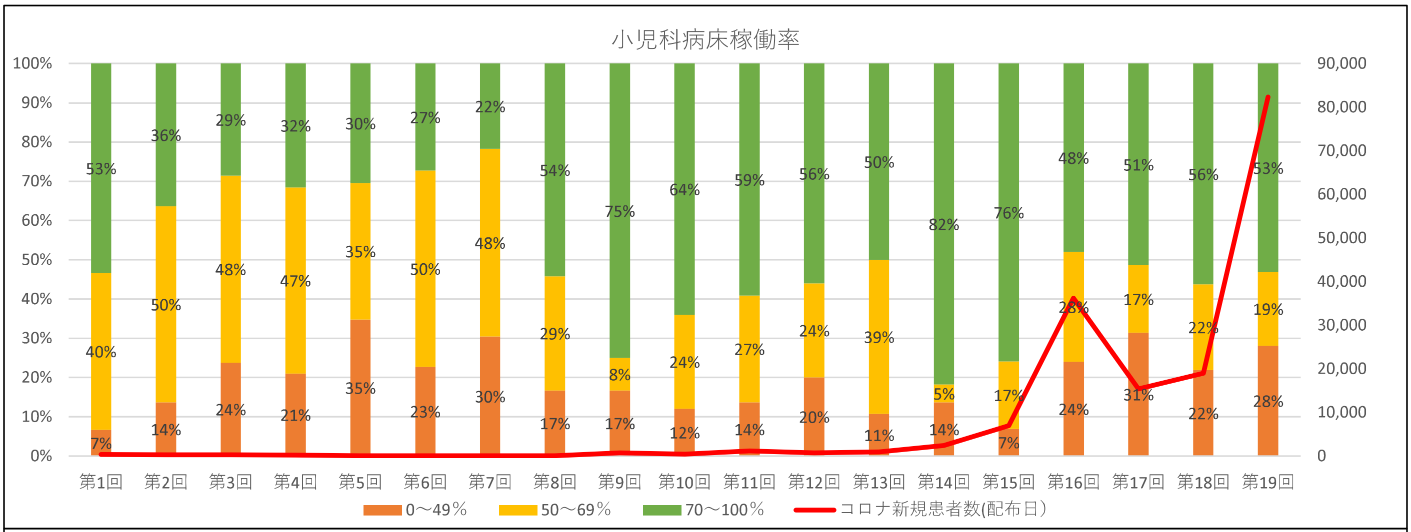
資料３

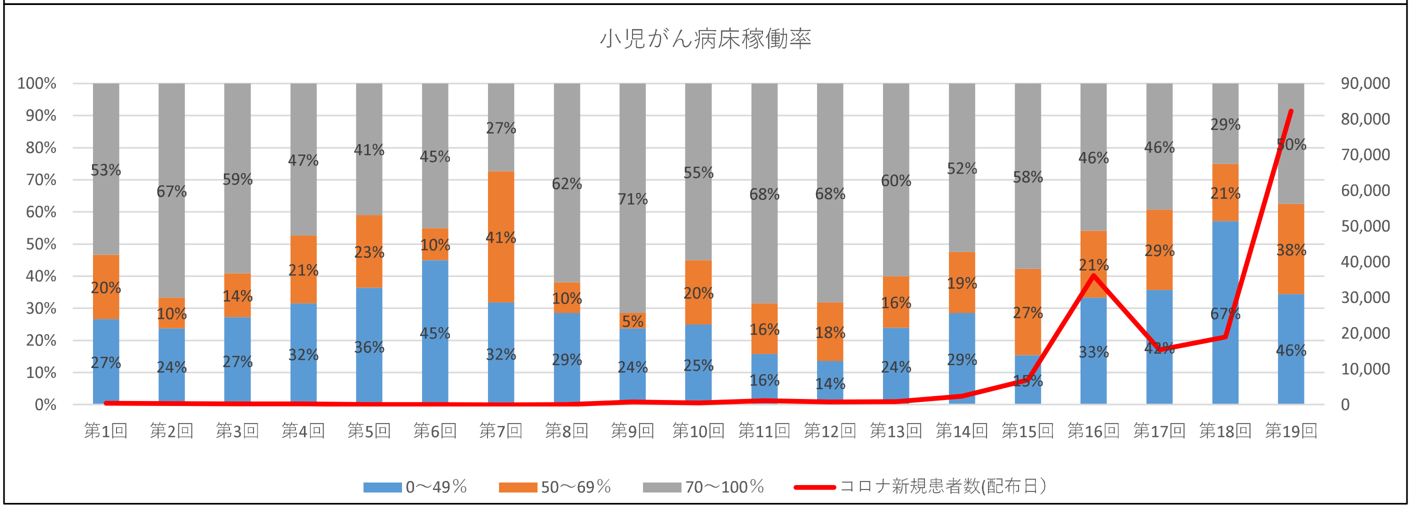
新型コロナウイルス対応時
小児がん現況調査

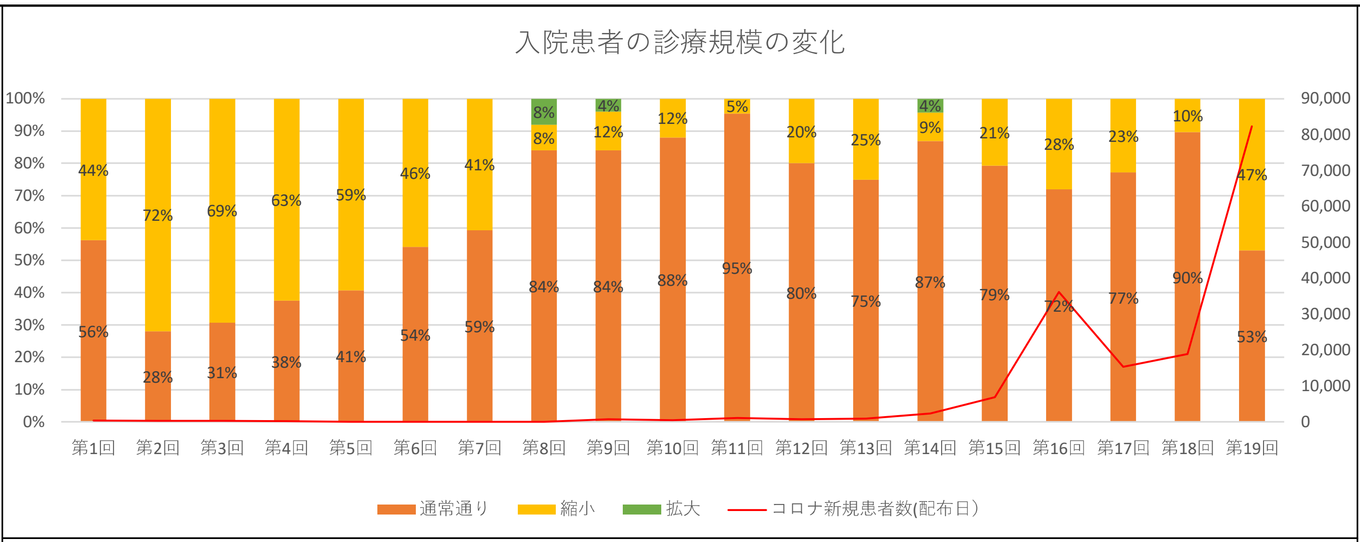
第１６回(2022/1/28配布分) 〜 第１９回(2022/8/5配布分)

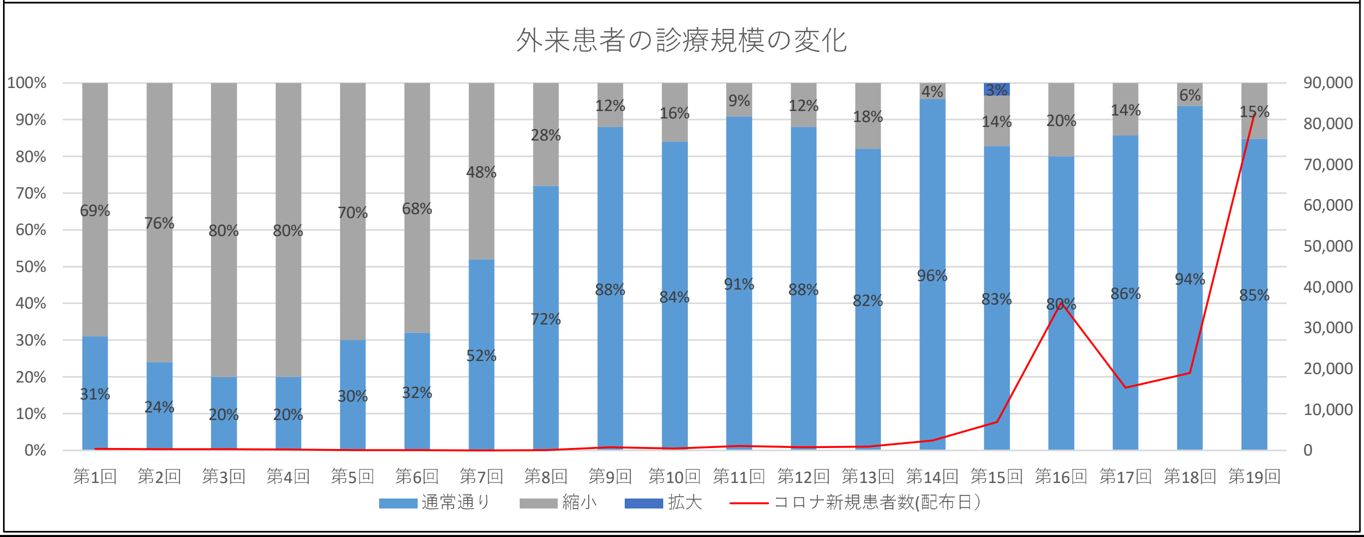
まとめ

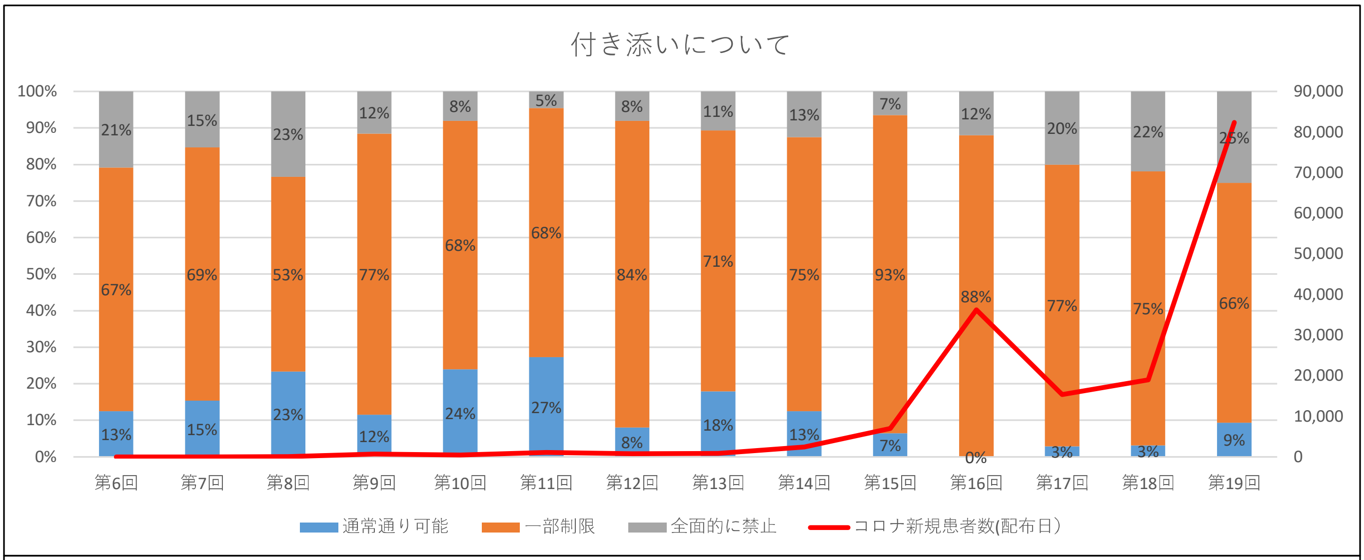


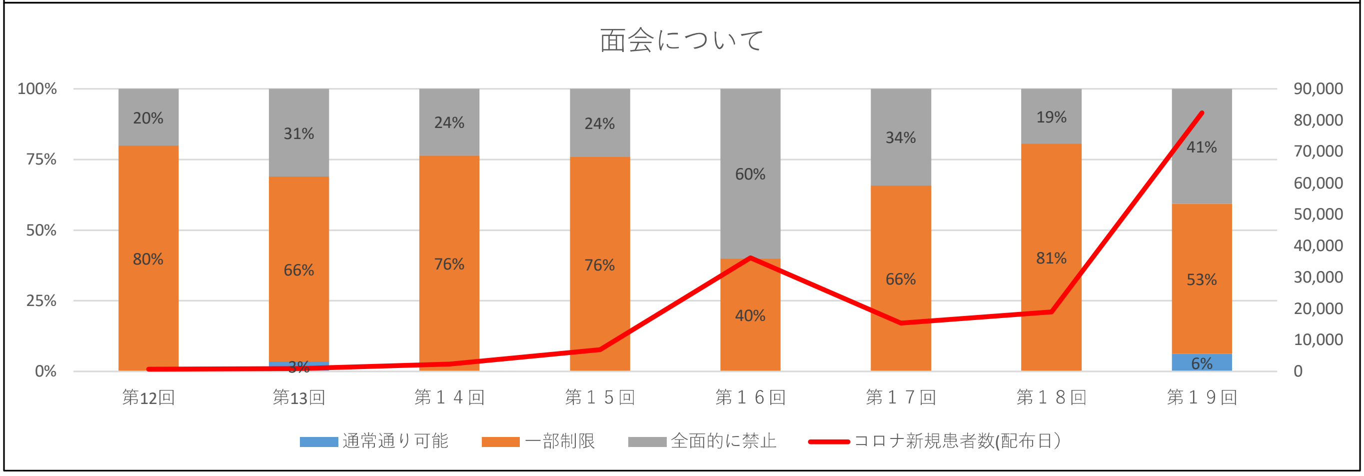


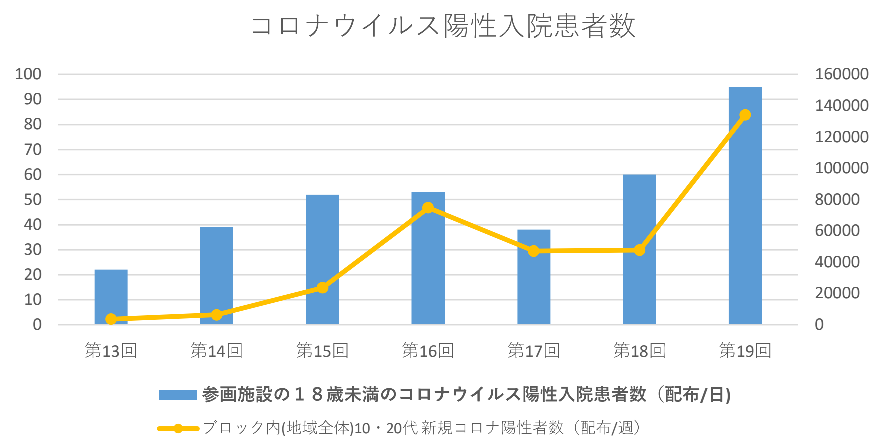



入院患者の診療規模の変化
通常通り
縮小
拡大
コロナ新規患者数(配布日)


外来患者の診療規模の変化
通常通り
縮小
拡大
コロナ新規患者数(配布日)

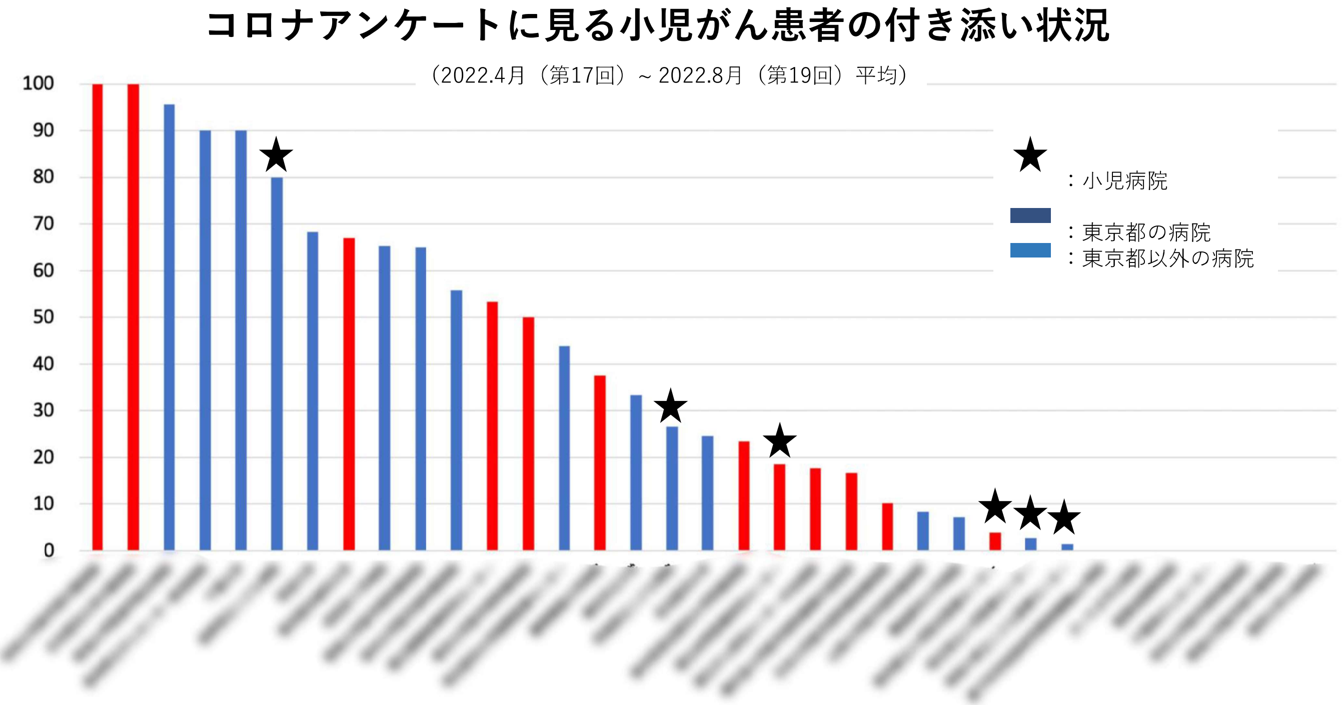

付き添いについて
通常通り可能
一部制限
全面的に禁止
コロナ新規患者数(配布日)


面会について
通常通り可能
一部制限
全面的に禁止
コロナ新規患者数(配布日)



小児がん患者の医療において、 コロナ第7波の影響でデメリットとなるようなことはありましたか。

新患を断った	10
予定入院を延期した	12
クラスターにより病棟を閉鎖した	4

コロナ第7波時点：コロナの流行とともにRSウイルス等の感染も激増。それによる困難感について

- ベットコントロール、医療スタッフの確保が困難
- 周辺の二次病院が急速に疲弊しており、緊急入院への対応が難しくなってきている。
- 入院依頼があっても受けられていない
- 外来業務増大によるスタッフの疲弊
- 院内外の入院施設がない。開業医から紹介されても対応できない。転送に時間がかかる。
- コロナ流行の影響で小児病棟が縮小した。そのため入院可能な病床が減少した。
- 感染症が流行すると入院依頼が増えるが、入院可能な病床は少ないため入院を断らざるを得ない。
- 入院病床、転院先病院の確保
- 看護師にコロナ陽性者が出て、夜勤看護師を確保できず入院制限となり、RSウイルス感染症を含め他の感染症等による入院患者を受けられないケースがあった
- 救急外来の患者の増加
- 近隣施設からの依頼はあるが、病棟事情によりお断りしている